第１９回「京都市ごみ収集業務評価推進会議」議事録

日　　時　　令和元年８月２０日（火）
　　午後３時３０分～午後４時４５分
場　　所　　北部クリーンセンター　会議室
出 席 者　　（敬称略　五十音順）
　　委　員　　小　島　一　芳（市民公募委員）
　　〃　　髙　橋　かつ子（京都市ごみ減量推進会議理事）
　　会　長　　中　井　　歩　（京都産業大学法学部教授）
　　委　員　　西　川　恵理奈（市民公募委員）
　　〃　　松　川　杏　寧（人と防災未来センター主任研究員）
　　〃　　山　本　菜　摘（市民公募委員）

　　事務局　　京都市　環境政策局　循環型社会推進部　まち美化推進課

議事内容　　○　報告事項
　　まち美化事務所業務の現状について
　　京都市のごみ減量・リサイクルの取組について
　　平成３０年度のごみ量について

　　○　協議事項
　　令和元年度「ごみ収集業務に関するアンケート調査」（案）について

○開会

○環境政策局循環型社会推進部長挨拶

部　長：　ふだん我々は，こうしていくべきということで，いろいろ取組を進めておりますが，行政側がそう思っていても，実は市民の皆さんからしてみれば，もっとこういう方法でやってほしいというようなところもございます。そういったところを忌憚なく我々のほうに発信していただき，これからの参考にさせていただけたらと思っております。

今日はごみ収集の話ですが，京都市のごみ量は，おかげさまでピーク時の平成１２年の８２万トンから昨年度４１万トンまで半減することができました。これもひとえに市民や事業者の皆様のおかげです。

ただ，ここ２年ほどはごみの減り具合が鈍化していまして，さらにこれから取組を進めていかなければならないと思っています。

今日はごみ収集に関するアンケート調査が主の議題となりますが，使い捨てプラスチックの問題や，今年の５月に食品ロス削減推進法が成立し，さらに取組を前進していく食品ロスの問題なども，今回のアンケート調査に少し盛り込ませていただいております。

今日のこの議論をアンケート調査中心として先ほども申し上げましたとおり，忌憚のない御意見を賜れたらと思います。

簡単でございますが，冒頭の御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いします。

事務局：　それでは，以降の議事進行は中井会長からお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○本日の会議の目的等

会　長：　まずは本会議の役割を改めて確認していきたいと思います。

本会議の役割は，家庭から排出されるごみの収集という市民生活に大変関わりの深い京都市の業務を，市民の感覚で評価，点検し，京都市の業務改善につなげることであります。いわゆる「ＰＬＡＮ（プラン）」・「ＤＯ（ドゥ）」・「ＣＨＥＣＫ（チェック）」・「ＡＣＴＩＯＮ（アクション）」，ＰＤＣＡの業務改善サイクルの「ＣＨＥＣＫ（チェック）」の部分を担うのがこの会議の役割です。

本会議では，意見を出し合うことで，市民の皆様に満足いただける業務が実現するよう，忌憚のない御意見，質疑をしていただきたいと思います。

本日の会議は，京都市のごみ減量・リサイクルの取組の最後の点検となり，その収集の部分についてご意見をいただきます。それから，第２に市民アンケートについて，活発な御意見をいただきたいと思います。

それでは，まず最初に，配付資料の確認から行いたいと思いますので，事務局からよろしくお願いします。

事務局から資料の確認及び説明

会　長：　ありがとうございます。

ただいま事務局から資料２「まち美化事務所業務について」，資料３「ごみ減量・リサイクルの取組について」，資料４「平成３０年度のごみ量について」を説明いただきました。

説明いただいた内容，それから先ほど御覧いただいた視察等を踏まえて，御質問，あるいは御意見等がありましたら，どうぞお願いいたします。

委　員：　家庭ごみは，新聞等にもあるように，少子高齢化になって人口そのものが減っているから，ごみの量も減っていると思います。逆に市外から来ている外国人などいろんな観光客がおられますが，そういう観光客のごみがどさっと増えてきて，それと家庭ごみとの関わりがどうなのかと思います。特に観光地，例えば祇園の石段下に大きなごみ箱を二つ置いたらすぐに満タンになりますよね。誰だってごみ箱を置いていたらごみを捨てる。それなら撤去しようという方向になり撤去されました。

今までのごみが減っているというのは，当然数字的に減っているのだろうと思います。行政も努力をされた結果と思いますが，やっぱり今言うように，新しい視点の動きもあるので，ごみとの関わりの中で我々ができることは何かないかと思います。

事務局：　まず人口ですが，全国的に人口減少傾向なのですが，京都市はそんなに大きくは減っておらず，ほぼ横ばいできていると思います。ただ，全国的な傾向でもございますし，京都市の人口も減ってくることもあるだろうと思っております。

観光客ですが，これは国籍を問わず，市外から来られる方のごみは，基本的に飲食とかホテルなどで出てくるごみで，事業系のごみとなります。そういった事業系のごみが増えているというか，減少に足かけになっているということがあるかと思います。例えば，食べ残しをなくすとかそういった方向で働きかけていただきますと，事業系ごみの減量にもつながっていく。先ほど食品ロスとか食べ残しという話がありましたが，そういったところを訴えていくというのが一つと思

っております。

委　員：　先ほど見学のときにペットボトルのキャップとかラベルが付いていると商品価値が下がり，業者の引き取り価格が下がるということを聞きましたが，そういうことを知っている市民は多分少ないと思います。そういうことで京都市の収入が増えることになるアピールをすれば，それならば協力したいなと市民も心が動くのではないかなと思います。

事務局：　一番分かりやすいところですので，そのあたりはＰＲしていきたいと思います。
　ただ収集日にペットボトルの袋を見ておりますと，ラベルが付いているものが昔と比べるとかなり減っており，大分ラベルを取るというのは定着をしてきているのではないかと思います。引き続き取組を進めていきたいと思っております。

会　長：　ペットボトルは，業者さんに買っていただいているのですよね。それで，高く売れば高く売れるほど京都市は得をすると。市民は税金を他に使ってもらえるということになります。
　クリーンセンターは，５箇所から３箇所に減らすことができた。これはごみ量をピーク時から半減することができたからで，指定袋の有料化など，議論もあったと思いますが，かなり先進的な取組をされてきて，これだけの成果が出ている。運営と建設と維持に，年間で何億円を削減できています。このように利益が出てきたということは，もっとアピールしてもいいと思います。京都市は，こんなに頑張っていると。市民の方が協力してくださると，これだけ儲かるじゃないですけど，お金が浮いて，他のところに使えているということは，もっとアピールしてもいいのではないでしょうか。

事務局：　広報物をどんどん出すだけじゃなくて，小さい単位で直接お話しさせていただくと，ダイレクトに伝わることもあります。エコまちステーションやまち美化事務所では，市民の方と直接お話をするという機会もありますので，広報物も大事ですが，そういった取組を組み合わせてアピールしていきたいと思っております。
　身近な市民の皆さんのお得感という点では，やはり紙ごみ等を分別していただくことによって，黄色のごみ袋が小さいサイズで排出できるということになると思います。京都市では，この間ごみ減量に取り組んだ効果として，以前は４５リットルとか３０リットル袋がメインとなっておりましたが，今は２０リットルとか１０リットルの袋にかわってきております。１リットル１円の袋ということで，わずかですけれども，市民の方にも実感していただける部分ではないかと思います。

ペットボトルに関しても，もうこれから恐らくボトルtoボトルということで，その素材そのものを，またペットボトルにリサイクルしていくということが重視されていくようになると思います。市民の皆さんにはさらなる御協力をお願いすることにはなりますが，そういった観点からもしっかり分別いただくことを，より進めていきたいと思います。

会　長：　続きましてごみ収集業務に関するアンケート調査について事務局より御説明いただきたいと思います。

事務局から資料に基づき説明

会　長：　ただいま，令和元年度ごみ収集業務に関するアンケート調査について御説明をいただきました。事務局から御説明ありましたとおり，アンケート調査の項目については，基本的に前回までのアンケート調査の内容を踏襲して，経年変化を定点観測的に同じ質問をするということで構成されています。今年度に関しては，せん定枝について，資源物回収，それから充電式電池の回収，レジ袋の有料化などの設問が増えていることになります。他に聞いておくべきことや，ここは修正したほうがいいのではないかというものがありましたらお願いしたいと思います。

まず，私から質問２５の生ごみ減量のために取り組まれていることはありますかという設問では，⑥「何もしていない」という選択肢があり，特に気にせず生ごみを捨てていますという回答が導かれますが，質問２６の食品ロスの削減のために何かしていますかという設問については，何もしてない人には選択肢がないということになるので，こちらも「何もしていない」の選択肢を入れたほうがいいのではないかと思いました。

質問２７の，充電式電池がトラブルのもとになっているというのは，どういうことでしょうか。

事務局：　バッテリーなどもそうですが，周りをプラスチックが覆っていますので，誤ってプラスチック製容器包装や燃やすごみなどで排出される。そうすると，クリーンセンター等で，ベルトコンベアで運んでいるときなどに圧力がかかって発火してしまいます。ボヤ程度で済めばいいのですが，破砕機などの設備が全焼したという話もございますし，京都市でも去年１０件近く発火を確認しております。

また，リサイクルで出荷した先においても，磁石等で除去するのですが，周りがプラスチックで覆われているため，除去できないことも多く，実際，リサイクル最終施設で圧縮する際に発火するといったことも出てきています。

会　長：　せっかくプラスチックをリサイクルで買い取ってもらったところで火事を起こすという，とんでもないことが起こるということですね。

事務局：　京都市でもさまざまな啓発を広げておりますが，アンケートでも皆さんに知っていただきたいということで，追加させていただきました。

委　員：　地域のまちづくりの力みたいなものと連動させたり比較したりしようと思うと，京都市の場合，元学区単位だと思います。
　このアンケートでは，行政区しか設問がないので，元学区がデータとしてとれる手法を考えてはどうでしょうか。

事務局：　元学区でいうと２２２学区ということでして，このアンケートの３，０００部の中でうまく割り振りができるかということがありますが，今後，学区ごとの傾向を見たいというようなアンケートになる場合には，そういったことも含めて検討したいと思います。

会　長：　経年変化みたいなところでいくと，今年度は何々学区のデータはあるけども，何々学区は空白地帯になると。でも，それを１０年単位でとっていくと，何々学区はこの１０年で学区の中で例えば満足度が上がったとか下がったかとか，リサイクルの分別意識が高くなった等の経過が出てくるということもあるかもしれません。何か基礎データとして集めるような，例えば旧学区でどこですかみたいなのは可能ですか。今年度１年だけのアンケートの結果で判断しようということではなくて，データでとっていくというのはどうでしょうか。

事務局：　例えば，仮説として本当にまちなかで，地域コミュニティそのものが活性化している地域であったりとか，あるいは周辺の地域であったり，幾つかの仮説を立てた上で，そういうところに集中してアンケートを実施して比較するというのは，今後あり方として一つの考え方ではありますが，その仮説の立て方，使い方を，今この場で決めるのは，なかなか難しい部分があります。いろんなデータとぶつけてみて，どういうふうに分別の意識が違うのかとか，ごみ収集に協力的にとらまえていただいているかとか，おもしろい結果が期待はできると思います。

会　長：　これまでは，民間委託が増えていく中でも直営と委託の中でどの程度，作成していっているかとかいうことを確認するというのがこのアンケートの基本的な柱だったと思いますが，それに沿ってちょっとずつアンケートを配布する場所を変えながら直営，委託の両方のデータをとって経年的な変化を見るというようなこ

とが狙いであったわけですね。

事務局：　今回のアンケートでは難しいと思いますが，今後の検討課題として，最初のほうに行政区を聞く欄がありますので，こちらに学区を書いていただくなどの設問の作り方はあると思います。

会　長：　それは中期的な課題としてなるかもしれませんね。

事務局：　回答数が１，２００部ぐらいで，学区数が２２２ですので，単純計算で１元学区での回答は６部程となります。それがいいかどうかということもあるので，やはり仮説を立てて集中的にやるなど，少し工夫をしながらやらせていただくほうが効果的ではないかと思います。

会　長：　例えば地蔵盆をやっているところとやってないところの違いを比較してみるなど，中期的な課題で，もうちょっと戦略的にしてもいいかもしれませんね。

事務局：　一方で，これまでは，ごみ収集サービスの質を高めることを目的に，従前までは直営と委託業者の比較によって評価をいただいていたというところがございました。直営よりも委託の割合が高まることによって，この質の担保をどうしていくかという議論も真摯に考える必要があると思っており，そういった点も踏まえて，調査ができないかと考えております。

委　員：　継続することはすごく大事だと思います。委託業者の質の担保のために，このように継続的な調査をしていることは大事なことです。こういう調査は，非常に労力が必要で，郵送はお金もかかるし，データ入力もやって分析してというのも人力かかることになる。それをこれだけ継続的にやられる。いわゆる流れというのがこのアンケートにはあるので，それをこれだけで終わらせてしまうのは，勿体ないと思います。もちろん質の担保以外に何か付随して，例えば，ちょっとごみを減らすような方針を促せるリサイクルの方法とか，そういうことにも使えるのではないかと思っているので，それこそ中長期的に，より生かす形に持っていきたいですね。

会　長：　長期だけでは勿体ないので，中長期に生かす検討が必要ですね。
　調査手法のほうが中心的な話題になっていますが，質問項目について市民の皆さん目線で，チェックしていただきたいと思います。

委　員：　移動式拠点回収は学区に大体１年１回とか決まっているのですか。

事務局：　やり方は２種類ございまして，一つが土日で1日当たり長い時間でやっているものは，いわゆる拠点回収に加えて，御家庭で処理が難しい，例えば油やガソリン，塩酸等も合わせて回収をして処分をするというものがございます。

もう一つは平日の開催でもう少し品目を絞って，時間帯も収集業務が終わってからいくため，短時間で回収するものでございます。

土日に開催するものにつきましては，概ね１学区当たり２年１回，平日に開催するものは，土日開催のない年にやるということで，１年に１回ぐらい開催しております。

委　員：　実施の際には，エコまちステーションの仕事が大変であると聞いておりますが。

事務局：　収集をしておりますのはまち美化事務所ですが、その日程調整をエコまちが行っております。行政区でも，例えば下京区は他の区に比べて面積は狭いですが，学区数が２３学区と多いので，調整が必要となります。２３学区を1年ですべて行うとすると月２回となり，日程調整がうまくいかないということがございます。

委　員：　出すのを忘れたという方，待っていたが出せなかった方は，１年待ってもらわなければならなくなる。市民しんぶんを見れば書いてありますので，よっぽど気をつければいいのですが，隣の学区へ行っていただくとか，例えば，エコまちに行ったら分かるとか，何か対応が必要ではないでしょうか。

事務局：　エコまちにお聞きいただければ確認できますし，決まったものについてはホームページにも掲載しております。日程調整が遅れるものについては，後から追加で載せております。

委　員：　設問のところの参考意見みたいにして，エコまちに問い合わせればわかるということが書いてあればうれしいなと思います。

会　長：　例えば質問１４のところにエコまちステーションの説明がありますが，エコまちを知っていただくという啓発的な意味での設問であるということであれば，ここで拠点回収の実施等書いてありますが，拠点回収についての情報提供もやっていると記載してはどうでしょうか。

事務局：　そのように加えておきたいと思います。

委　員：　質問２０のところの選択肢の５番のコンポスト容器とはどんなものですか。

事務局：　コンポスト容器は，いわゆるバケツみたいなものですが，生ごみを発酵させて堆肥をつくるものです。堆肥というのがいわゆる野菜にあげる有機肥料ですが，そういったものをつくる容器をコンポストといいます。

設問に解説を記載するようにします。

委　員：　拠点回収に関しては，市民しんぶんを見ないと分からず，回覧等のチラシはほとんどなかったように思う。周知方法を検討していただけないでしょうか。

事務局：　周知の仕方については，我々が職員が全部１件１件回るわけではなくて，回覧をしていただいたり，市民しんぶんを見ていただいたりしておりますが，周知が行き渡るよう引き続き考えていきたいと思います。

会　長：　これで本日予定しておりました議案は全て終了いたしました。

最後に私から今日の議論を踏まえて一つ，これまでのアンケート調査の結果では，収集業務の評価に関しては，比較的高い評価が続いているということもございます。事務局からもございましたように，今回のアンケートで１０年目，１０回目ということになります。行政の計画では，だいたい１０年で一単位ということになっていますので，ここで中・長期的なことも考えて，アンケートの手法等を見直してもいいかと思います。今の課題でありましても，例えば京都市が一生懸命いい施策を実行しようとしても，届いている地域と届いていない地域があって差があるということであるとか，せっかくの政策の効果を高めるというようなことを含めて，実態を把握，理解するということがアンケートの次の１０年間の役割かと思います。

これまでの直営，委託ということの比較，それから市民のごみ減量の意識，それに付随して分別の徹底ということを把握するというのが，これまでの，この１０年間のアンケートのミッションだったと思いますが，今後，次の１０年間のことを考える上でのアンケートということは，中期的な課題と先ほども出ましたけども，引き続き検討していくべきかと思いますし，この会議で議論していくべきかと思います。事務局でも検討していただきたいと思いますが，委員の皆様からも，こういうアンケートにすればいいんじゃないか，こういうことを把握したらいいんではないかと，お気づきのことがありましたらお願いしたいと思います。

委　員：　アンケートはどれくらいの回収率ですか。

事務局：　３，０００部を配布し，回収率は４０数％で推移しております。この手のアンケートとしては回収率は高いのではないかと思っております。

委　員：　マーケット回収をさせていただいているのですが，マーケット回収の説明をどこかに入れられないですか。コミュニティ回収は大分周知されていますが，マーケット回収があまり周知されてない。拠点の数が少ないからここに書けないということでしたら理解しますが，マーケット回収は，ほとんど知らない人が多いと思います。このアンケートによって，マーケット回収に持っていってもかまわないと思っていただけたらうれしいのですけどね。

事務局：　マーケット回収もあり市内で１１箇所あるということについても書かせていただくよう検討します。

会　長：予定していた時間を超過してしまいました。長時間，御審議いただきましてありがとうございます。

事務局：最後になりましたが，今回のアンケート調査の結果は，年が明けてから次回の会議の場で報告させていただきますが，この１０年やってきた中で，一定，ごみ収集業務については高い評価をいただいているかなと思っております。

　先ほど中井会長からアンケート調査も１０年続けてきたのでというお話もございました。そうした中で，今日，御提案もございましたように，ちょっとアンケートのやり方を変えていこうかと考えています。一つは何らかの仮説を立てた上で，今後の一層のごみ減量，またごみ収集の効率的なやり方につながるような観点，また，委託化率が高まっていきますので，委託業者にもっと深堀りした取組をしていただくためのアンケート調査の手法，あるいは評価の手法という点もございます。事務局のほうで議論させていただいて，次のこの会議の中で御提案をさせていただければと思います。

　また，京都市では，ごみの半減プランという次期計画の策定を，来年度に実施する予定で，その過程の中で必要な調査を行うことにしています。そちらとの兼ねあいもありますが，次回報告させていただくことになると思います。

会　長：　では，事務局にお返しします。

○閉会

事務局：　本日は長時間の御審議ということでありがとうございました。

今回の意見を踏まえまして，アンケートを修正したいと思っております。詳細につきましては，会長と調整をさせていただきます。また次回，次の段階へのシフト出来ないかと思っているタイミングでございますので，そういったことも踏まえて，御議論をお願いしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。